

## 第46回関西学院史研究会 (二〇一六・六・二八)

### 『この九年間を振り返って』

―院長として考えたこと、感じたこと―

講師…ルース・M・グルーベル 前関西学院院長、関西学院大学

社会学部教授、関西学院宣教師

司会…舟木 譲 関西学院宗教総主事・学院史編纂室室長

会場…大学図書館地下一階 大学図書館ホール

舟木 ただ今から、第四六回関西学院史研究会を開催したいと思います。本年度第一回目の研究会でありますけれども、本日はお足元の悪い中ご参加ありがとうございます。私はこの四月から学院史編纂室の室長を仰せつかっております舟木と申します。司会を担当させていただきます、どうぞよろしくお願いいたします。

早速、本題に入りたいと思います。今日はこの三月まで関西学院の院長として九年間、三期という大変長い期間に

わたって重責を担ってくださいましたグルーベル先生にお越しいただいてお話を伺うことにいたしました。グルーベル先生は一九九六年（今年で二十一年目）に社会学部の宣教師としてお越しいただき、社会学部での教育、また関西学院全体のキリスト教におけるさまざまな活動にご協力いただきました。また、CIECの副長でご活躍いただいで、さまざまな形で学生諸君のみならず、教職員に感化を与えていただきました。二〇〇七年度四月から九年間、三

期にわたって院長を務められましたけれども、一期目の二〇〇七年度から二〇〇九年度までの三年間、ちょうど私は院長補佐をさせていただいて、グルーベル先生の間近で、お忙しいところを拝見させていただきました。この四月

から新しく院長が代わりましたけれども、関西学院内のことになります。将来どういう形で関西学院、あるいは関西学院大学をさらに発展させていくかということで、例えば学長選挙の見直しということが本格的に考えられております。それに伴って理事長の選挙のあり方、それから理事会の選挙のあり方というのも検討に入っております。さらに、院長の選挙のあり方に関しましても選挙委員会が組織されまして、いまちょうどその話し合いが始まっているところでもあります。関西学院にとりましては、関西学院の創立者であるW・R・ランバス宣教師が日本で宣教を始められて、ちょうど今年で一三〇周年になります。一八八九年に創立し、初代の院長になられて関西学院の歩みが始まりました。院長職というのは関西学院の歩みとともにすすんできたのですが、ここに九年間、非常に激変した関西学院のあり方を当に担ってくださったグルーベル先生でなければ語れないことを今日はお話をしていただこうと思います。質疑応答の時も設けたいと思いますので、グルーベル先生

にはお答えいただける範囲で結構ですのでお答えいただきたいと思います。それでは、グルーベル先生にお話をうかがいたいと思います。どうぞ最後までよろしく願いいたします。

グルーベル 皆さまこんにちは。このようなお天気の時にお越しくださいましてありがとうございます。三月からもう三カ月経とうとしてきたところですけれども、九年間を振り返るといいうのは大変難しいことに気づきました。ですので、私は関西学院がどう変わったのか、そういうことを中心として皆さまと一緒にその九年間を考えていきたいと思っています。

### 関学のトップから学んだこと

皆さまのお手元にこのパワーポイントのスライドのコピーがありますけれども、私は自分で自分のことをしなければいけない生活をしているので、本当に恥ずかしいパワーポイントですけれどもお許し願います。

三人の理事長からいろいろ教えていただきまして、共に関西学院の生活をすることができました。ここに書いてある年は、もちろん二〇〇七年から二〇一六年までの間の期

間だけです。だから今日いらっしゃる山内先生は、それ以前にずっと理事長をなさっていましたし、その前は院長もなさっていました。実は、二〇〇六年に院長選挙がありました、その結果が皆さまに知らされた直後に私はお電話をいただきまして、それは宮田満雄先生からでした。宮田先生は私が関学に來た時の院長でして、大変いろんなかたちでお世話になったのですけれども、宮田先生は「私が院長になった時も貴女と同じ年でした」というふうに仰いました。そして、宮田先生も九年間院長のお仕事をなさったというところで、最初から応援をいただいて感謝しています。

学長の先生方からも教えていただいて、とっても感謝しています。今日杉原先生もいらして、本当にありがとうございます。ありがとうございましたけれども、関学が大きくなった時がいろいろありました。この間に他の校長は交代しましたが、ずっと九年間同じ校長だったのは中学部の安田先生でした。福島先生もずっと、ありがとうございます。

そうですね、二〇〇七年の最初だったんですけれども、まだ畑院長がおられる時に、最後の院長室会の集まりに招かれて、引継ぎのような形で畑先生からお話しをうかがいました。畑先生に頂いたメッセージは、キャンパスが上ケ

原と三田と分かれていて、どういうふうにも三田も上ケ原も関西学院のスピリットを保つべきなのか、どういうふうにも三田キャンパスにいる方々、そして上ケ原にいる方々が本当に同じ思いで、そして互いに支え合うという、そういうコミュニケーションができるのか、これが一番大きい課題だというふうにおっしゃいました。きっと畑先生は想像しなかったと思いますけれども、そこから今はキャンパスが七つになってしまつて、その課題がますます大きく広がっているということ。三つのキャンパスというのは、梅田にもう既にオフィスがありまして、それと上ケ原と三田で三つで、今は七つということですね。そして学校はその時の四つから十に増えたということです。学部も増えましたね、八つから十一に増えました。そして大学の学部の募集人数ですね、それがもう千人以上増えたわけですね。千五百人ぐらい増えたということで本当に拡大していく大学、そして学院ということです。またこういう変化によって建設、いろんな工事が進みました。皆さまもご存知のようにいろんな所に新しい建物や教室ができて、宝塚には全く新しいキャンパスができました。そして最近ではラーニング・コモンズというキーワードによって新たなスペースがさらにできました。

また、一二五周年の記念事業として中央講堂が建て替えられて、これも上ヶ原キャンパスが長い間工事の現場になってしまった理由でした。G号館からH号館、社会学部など新しい教室ができ、建物が変わってキャンパスも変わっていきました。また三田の場合は、コモンズはキャンパスを挙げてデザインしたので、その世界でも誇りを持つことができるようなコモンズになりました。

同窓会も変わりました。校友課の岡田さんに助けてもらってこの資料の数字を出して頂きました。同窓会長が三人その間おられました。最初は森下さんでした。ご存知のように案外と早い時期に理事長になりましたので、大橋会長に代わりました。そして、二〇一五年に村上さんが会長になりました。また支部もどんどん増えていって、今では国内外一一五支部あります。海外に二六支部もあるのは本当にすごいと思います。同窓の皆さまはとっても元気で、いろいろ新しいことを進められています。二〇〇六年に卒業生ではない私も特別会員として受け入れてくださったことをずっと感謝しています。

## 大学とキャンパスの変化

それでは、二〇〇八年からどういう所が変わったかと言いますと、初等部ができて、そして人間福祉学部が大学にできました。社会学部にいた私にとってこの人間福祉学部ができたのはちよつとショックでした。ショックというよりも淋しいことでした。なぜかと言うと、ずっと大切にしていた社会学部の社会福祉の仲間が別の所に行ってしまった、キャンパスの反対側のG号館、新しくできたG号館に移ったということなんです。今までは一緒に教授会をして一緒にいろんなときに顔を合わせて楽しい会をしたりしておりました。今度はその社会福祉のメンバーと別の方々もそこに一緒になりました、新しく人間福祉学部ができたんですけれども、社会学部にいた私にとってはちよつと淋しかったです。今までグラウンドがあつた所にドーンと大きいG号館ができたので、同窓の方々も久しぶりにキャンパスを訪れたら、ビックリされたと思います。二〇〇九年には聖和と合併をいたしました。

新しい学校と学部が関学にまた加わりました。この聖和の合併のために山内先生も本当に努力してくださって、やがて二〇〇九年にそれが実現しました。今まで伝統的には

ゆかりのあった聖和ですけれども、とにかく私達の関学ファミリーに幼稚園が加わった訳です。そして聖和短期大学も関西学院、学校法人関西学院聖和短期大学という新しい名前です。二〇〇九年度をスタートしました。そして聖和大学は在学生が卒業するまで存在しましたので、二〇〇九年度の間は聖和大学がありました。そして聖和キャンパスに関西学院大学の新しい学部ができました。それが教育学部。またそこにいろいろな希望がありました。

キャンパスの写真を選んでみました。山川記念館という建物ですが、新しく合併直前にできた建物です。その下はヴォーリスが建てた建物です。そして、聖和幼稚園の子供たちの様子ですけれども、聖和の森、自然を大切にして、遊びながらいろいろな人生のことを学ぶという聖和幼稚園の優れた教育理念に、私たちも感動いたしました。

### ミッションステートメントの作成

二〇〇八年の間に、新しい理事長が就任してそしてその間に基本構想、新基本構想というプロジェクトを起ち上げる準備をしました。一年位かけてその新基本構想で、関西学院がこの十年先という方向に向かうべきなのかそれを

みんなで考える期間になりました。二〇〇八年からその準備が始まり、二〇〇九年から実施しました。私がいちばん関わったのはミッション関係のことです。何をやるにしても、何のためにするのか、この組織はどういうものであるのか、それをはつきり、みんなで、共有しなければいけない。そのためには、ミッションステートメントを作らなければいけない。そういうことを考えて、いろんな委員会、いろんな集まり、インターネットでもいろいろな意見を募集して、やがて今のミッションステートメントができました。本当は、短い、わかり易いミッションステートメントがいいと思いましたが、やっぱり関西学院というこのコミュニティを表すためにはもうちょっと文言が必要だということ、スクールモットーまでミッションステートメントに入れました。皆さまも、思い出すために是非ご覧ください。

そしてその中で、二〇〇九年度からミッション展開推進委員会というものができて、そこでいろんな方々の力をいただいて関西学院でどういうふうにミッションを進めていくべきなのか、これを考えていろいろアクションを起こしました。左側の写真にあるのは皆さまお馴染みだと思いますけれども、これは何年か経ってからでき上がったも

ので『輝く自由』です。関西学院の基本的な知識を入れて、新しいバージョンも作りました。今年から英語版もできました。けれどもとにかくどんな年でも「関西学院はどんな学校」と聞く人達にはこれを見たらすぐ判るように、ベシッ的な情報、歴史や理念、組織、大事にしてきた活動、そうしたことが紹介されています。今は関西学院にいる全児童・生徒・学生や教職員にお渡ししています。そして、ミッシン展開推進委員会にはまた後程紹介するプロジェクトがあります。

二つ目の、私が主に係わったプロジェクトは「教育連携」ということで、関西学院の学校同士でどういうふうな連携を取れば一番関学らしい協力ができるのか、こういうことを考える委員会や組織を作ろうと思ったんですけれども、まだまだ実りが少ないようなプロジェクトで九年が終わりました。

## 国際化の進展

二〇一〇年は「国際」の年とよんでいます。なぜかと言うと、大学には、国際学部が十一番目の学部としてできました。また、千里国際学園というところと合併をいたしました。

して、それによって新しい中等部、そして高等部、またインターナショナルスクールが関西学院のファミリーに入りました。ユニークな学校で、大いなる刺激を私たちに与えました。

二〇一〇年はカナダの教会がアメリカのメソジスト教会と協同で関西学院を支援した百周年をお祝いする年にもなりました。このベーツ先生の写真は一九二二年だからちよつと合っていないのですが、ベーツ先生はそのことによって関西学院に來られたのだということを皆様にお伝えいたします。また、関西学院が関わっているキリスト教学校教育同盟は、二〇一〇年に百周年を迎えまして、当時関西学院が関西地区の代表校であつたので、いろいろイベントに参加し、協力しました。また百年史を作る時に関西学院の人達が貢献してくださいました。

そして関西学院創立一二五周年の記念活動がこの年に始まりました。二〇一〇年から二〇一五年まで五年間、この準備とかいろんなイベント、また募金活動を行いました。一二五周年、そこにキャッチフレーズが書いてありますけれども、右側に募金をしてくださった方々の名前が書いてある所、全員ではもちろんないですけども本当に大勢の方々の温かい募金によって関西学院が一二五周年を迎える

ことができました。

## 東北大震災と関学の支援活動

次の年二〇一一年三月十一日には大変な震災がありました、私達は直接は被害を受けなかったわけですが、いろいろなかたちで関西学院に関係する人たちが支援活動をし、またその地方からの学生が関学で学び易くする制度を創ったり、いろいろ考えました。ボランティア活動がとても活発に進められまして、今もまだ続いている関係がたくさんあります。そして学校が増えたことによって、関西学院全体で何か一つするというよりも、各学校や学内グループがその人達の特色で、東日本の方々と関係を作って支援をしたということがありました。初等部、中学部・高等部で異なるプログラムがありました、それぞれが考え進めました。そしてその間、一二五周年の募金活動を少し停止するということになりました。その一年以上の間は、募金推進に影響もありましたけれども、それは当たり前のことです。

## 男女共学化の進展

共学化が進みまして、初等部の卒業生が中学部に進学し、二〇一二年に中学部が初めて女子生徒を迎えました。準備の時には緊張して、「何をしたらいいのか？」とみんな言っていましたけれども、順調に共学化が進み、去年から高等部が共学となり、来年が完成年度です。来年度の終わりに初めてその生徒たちが大学に進み、そして共学化が中学部で始まったこの年は、Mastery for Serviceの百周年をいろんなところでお祝いをしました。ベッツ先生がMastery for Serviceを提唱したのが一九一二年だと言われていますので、それから百年を祝って、各学校や同窓会などいろんな所でMastery for Serviceを中心としたプログラムを組んでくださいました。

## 文部科学省のスーパーグローバル支援事業採択

二〇一四年に高等部がスーパーグローバルハイスクールに選ばれて、そして二〇一四年の九月に大学がスーパーグローバルユニバーシティに選ばれました。また次の年二〇一五年には千里国際の高等部がスーパーグローバル

ルハイスクールに選ばれまして、ますます、いろいろなところから認められる国際的な学校であるということが進んでいったわけですが、実は一九九五年に総合政策学部ができた時から、既に関西学院のカリキュラムは国際的になっていて、そこではバイオニア的なプログラムがたくさんできたし、卒業生の方々が二〇一二年までにはもう既に世界で優れた活動を始めていました。またこの間にいろんなスポーツのイベントがあつて、私が思い出すのは高等部が甲子園に行った時、本当に学院を挙げて応援がすごかったことを思い出します。そして大学のアメリカンフットボールの甲子園ボウル、ライスボウルはなかなか勝てなかったですが、マイナーなスポーツのはずなのに関西学院に連なる人達は、アメリカンフットボールの大ファンで、とっても応援してくださったのはありがたいことです。武田先生のアメリカンフットボールへの情熱に感謝しております。

### 入学式・チャペルなど行事は倍増

二〇〇七年に院長に就任した時に、早速入学式がありました。五つあったんです。中学部、高等部、大学が二回あ

りました、そして大学院、計五回。今はOISを入れたら一二あるんです。だから最後は全部行けませんでした。舟木先生も短期大学の入学式に行ってくださいましたが、ほかの行事とバッティングをしていました。しかしこういう行事が倍増以上したということは、セレモニーに参加する人達の生活が変わったということです。そしてキャンパスも増えたから、関西学院に初めて来られた教職員や大学生も多くなってきたわけなんです。したがって、関西学院の建学の精神を伝えるニーズがもともと重くなってきたというふうに思います。建学の精神というタイトルは、春の宗教運動の時のいろんなテーマですけれども、学校が増えたので、いろんな学校で建学の精神を語るチャンスが与えられました。まだ私は整理していないですが、何回建学の精神の話をしたのか、できるだけ同じことを言わないように努力しました。小学生から大学生まで、建学の精神に対するお話しやプログラムを宗教主事の先生方などいろいろ考えてくださいました。

学校が増える、学部が増えるとまたチャペルの数も増えるわけですね。初等部は毎日チャペルをします。だからそこでもう週に五回増えるわけですね。短期大学もチャペルをするし、また新しい学部でも週に何回かチャペルをする



ので、関西学院全体のチャペルの数は相当に増えました。

またキリスト教のいろいろな行事が他にありますが、宗教センターの方々がいろいろな纏めてくださっているのです、その仕事もとても増えたと思います。宗教主事会の皆さまもコーディネートが大変だったと思いますが、吉岡記念館の方々は本当に努力してくださっています。

例えばこういう活動の中には、教職員へ誕生日カードを贈る仕組みがあります。関西学院の教職員には誕生日になるとこういうカードが贈られるのですが、教職員の人数が増えるとそれも増えていくわけです。これは宗教活動委員会の中の部会が担当しているのですが、宗教センターの職員の方々が責任を持って準備をしてくださいます。私は、コミュニティを感じるためにはこういう手書きのカードを贈るとするのは大切だと思います。全然知らない人の名前ばかりかも知れないけれども、「誕生日おめでとう。貴方は大事な人だ」と、そういうつもりで贈っています。拡大する組織の中で一人一人が大事に思われるいうために、小さな行いも大事だと思います。同時に、それを維持していくのも大変だと思います。早天祈祷会は、ランバスチャペルで金曜日の朝開かれますが、そこでいろんな学部とか学校、またいろんな行事の紹介がありますが、学校が大きく

なってそのテーマもまた増えてきたわけです。

## 様々なクリスマス行事

関学ほどクリスマスを大きく祝うところは余りないと思います。私もクリスマスの時期が好きだから、自分の役目がなくても時間があるときはコンサートに行ったり、プログラムに参加したりしていましたけれども、とにかくアドベントからシンフォニーホールのクリスマスのコンサート・礼拝の時まで、様々なクリスマスのお祝いがあります。毎年たくさんあるね、とみんなと話していたのですが、二〇一三年には記録を更新しました。私が参加したクリスマスは、合計二三のプログラムがありました。これはアドベントから二十四日の教職員の集いまでですね。そしてその中の一四の会で何か役目があったのですが、クリスマスはみんな本当に素晴らしい内容です。

聖和幼稚園のクリスマスページェントは涙が出ます、本当に素晴らしいです。初等部も、みんな一生懸命歌い、そしてページェントもありますし、今まで関学になかったようなクリスマスでした。中学部も高等部もそれぞれ違って、本当に凄いクリスマスのお祝いです。新しい中央講堂のク

リスマスは蠟燭が持てなくなつて残念ですが、オール関学、みんなが集まつて祝えるクリスマスです。神戸三田キャンパスには最初はコミュニティの人達も呼んでやつていたクリスマスがあります。各々特別な魅力がどのキャンパスにもどの学部にもあります。

### 熱心な同窓会活動

私も院長に就任して関西学院の歴史をもっと知らなければいけないということで、学院史編纂室の池田裕子さんから、ランバス先生の伝記をわたされ、「これを勉強してください。読んでください」と言われて学びましたが、やはりそれは本当に大事な勉強・資料になりました。学院史編纂室は貴重な資料だけではなくて、様々なコネクションを持っています。今日来学されていましたが、ニュートン先生の来孫（らいそん…五代後）の方が来られていました。そういう繋がりのある方々にお会いして、また今まで知らなかったような関西学院の歴史を知ることができます。そして同窓会。多田さんがいらつしゃいますけれど、お蔭で、『ランバス博士の足跡を辿る旅』というのを三回しまして、その中の二回私も行かせていただきました。アメリカと中

国に行かせていただきました。この時の旅は、アメリカのメソジスト教会から依頼されて、書いた記事が関係雑誌に掲載されました。同窓の方々と一緒にランバス先生、そしてそのご家族とゆかりのある場所に行くのはとても印象的でした。西垣先生も最年長のメンバーとしてご一緒していただいてうれしかったです。

同窓会のいろんな支部にお邪魔させて頂きました。そしてとても親切にしていたただけではなく、関西学院をどれだけ同窓の方々が応援してくださっているのか、私も少しずつ理解することができました。ホームカミングデーは、とても素晴らしいお祭りで、一二五周年の年にユニバーサルスタジオジャパンで、同窓会が大きな関学パーティーを開かれ、大勢の同窓やそのご家族の方々が集まってくれました。

### 院長として何を行うか

関西学院の繋がり、スピリットをみんなで共有するため何をしたらいいのか、これを考えた時に、第一に進めたことは、『院長室から』という、（年に数回、全部で三五回出しました）エッセーの発行です。英語と日本語で作成し

発行しました。これは現院長の田淵先生のアイデアだったのです。田淵先生のサポートや秘書課の三芳さんや嵯峨根さんのサポートがなければ、私一人でこれをちゃんとしたかたちで皆さまにお送りすることはできなかったと思います。成功したかどうかは判りませんが、とにかく関西学院の教職員に「ちょっとこんなことを考えています。皆さまいかがですか」みたいな本当にシンプルなメッセージを送りました。たまにはお返事を頂いたりしたこともありました。

第二に、先ほど紹介いたしましたミッション展開推進委員会ですが、そこでは三つのプログラムがあります。インクルーシブ・コミュニティ促進委員会というサブ委員会があり、そこで関西学院のインクルーシブ・コミュニティ宣言というものを作りました。いろんな人達が関西学院の中で自分らしく元気に活動できる場所をつくりましようという呼びかけの宣言でした。それを進めるアイデアを出し合っている委員会です。

自校教育、これに関して「関学学」という授業があります。舟木先生も係わってください、定員が三百人程度の授業です。人数制限をしなかった年もあって、溢れてしまったので三百人までの制限をしました。この春学期も、上ヶ原で

三百人の「関学学」という授業をしています。『輝く自由』のブックレットもこのサブ委員会で作りしました。

また新しいプログラムはリーダーシップ、関西学院らしいリーダーシップを促進するための委員会ができて、近いうちにいろんな新しいことがそこから出てくると思います。

第三に、新しい職員の方々の採用面接に関わる責任ということがあります。その場では、「関西学院はこのような学校です、キリスト教主義に基づいて教育を進めている学校です。貴方はこれに対してどう思いますか？ どういうふうに理解していますか？」ということを新しい職員に聞くことができました。若い職員だったら、私と一緒にその話をしたはずだと思います。あまり深いところまで理解していなくても、関西学院で働く職員は、キリスト教主義が私たちのベースで、Mastery for Serviceを大切にしているということは、みんな理解していると思います。初等部で働くにしても、東京の丸の内キャンパスで働くにしても、職員として理解してくださっていると思います。

そして後援会、後援会の方々にいろんな所でお世話になりました。PTAと呼ぶ場合もありますけれども、保護者の方々の組織はとっても関西学院を温かくサポートしてく

ださっていて、それも私は感謝して感動した時もたくさんありました。自分の子どもだけじゃなくて、学校の全員の子ども達のために保護者が努力するということを見て感動いたしました。

チャペルというものの、関西学院のどこにもあるチャペル、これに参加すると関西学院のスピリットが伝わるということとで、できる限り時間があれば私は参加しようと思いましたが、別にそれが偉いとかでは全くなくて、学部によってチャペルの味も違うし、またどんな学生がいるのか、どんなお話、どんなパフォーマンスが聞けるのか、いろいろ分かることがチャペルにはありました。

まわりの人に助けられて

九年半前は全く何をしたらいいのかわからなかった私ですが、急にこの新しい仕事に就いているんな方々にお世話になりました。特に一番お世話になったのは、身近な法人部の方々でした。特に秘書課の方々、最初は藤谷さんという秘書の方が、また人事異動で三芳さんという方が来てくださって、長い間三芳さんにお世話になりました。また嵯峨根さんという長い間法人部の経験をお持ちの方が身近な所

にいたので、いろんなことが聞けてとてもラッキーだったというふうに思います。校友課の宮脇さんや岡田さんには、同窓会の繋がりとかでお世話になりました。九年間ずっと常務理事として一緒に法人部にいてくださったのが梶田さんでした。梶田さんも今年退職されましたけれども、九年間ずっと一緒にいてくださって、梶田さんほど学院のことをご存知の方はいなかったと思います。いろいろ相談したことがありました。そして常任理事の中では阪倉先生がずっと九年間一緒に、たくさん助けていただきました。皆さまからも本当に助けていただきました。私がああのが終わっても生きていくというのは奇跡だと思います。皆さまのお蔭でちゃんと生きています。社会学部の仕事もあまりちゃんとできて、いろんなミスもしたのに許してくださったことにもとても感謝しています。最後にもう一人、九年間頼っていた人がいます。家のことを余分に引き受けて、遅い帰宅や多い出張を理解してくれた夫のマイクがいなければ、院長職に専念することは出来なかったでしょう。

これから新しく院長選考の制度を考える委員会ができるんですけども、どんな人が院長になればいいのか、院長はどういう活動を求められているのか、こういうことを新

たに考えなければいけないと思います。で、九年前と今と比べたら違うような人が必要かも知れませんが。組織がこれだけ変わって、また人々も変わってきました。世界も変わりました。だからそれに対応して、積極的に関学らしい院長はどんな人になるべきなのか、これをまた皆と一緒に考えていきたいと思っています。本当に皆さまご清聴ありがとうございます。九年間ありがとうございました。(拍手)

## 質疑応答

舟木 グルーベル先生、ありがとうございました。九年度の長い活動を短い時間での報告という無理をお願いして、失礼しました。あと三〇分弱の時間がありますので、皆さんからご質問がありましたら挙手をお願いします。

## 英語教育の在り方

木本 グルーベル先生、どうも長きにわたってありがとうございます。国際学部の木本です。グルーベル先生が院長になられたというのは、国際学部にとっては非常に重要な事でございまして、国際学部のアピールの面や、設立前

に英語科目を揃えるべきと強く主張されたのは、グルーベル先生とうかがっています。現在国際学部がかなり上手く回っているのも先生のお蔭とっております。質問は、関西学院の国際化に向けてかなり今進んでいるわけですが、特に学部の英語教育について、忌たんのないところをお聞かせ願えればと思います。一応関学は留学制度も充実していますし、英語のネイティブの先生が教えることも多いんですが、先生が考えられているところを教えてください。ばと思います。

グルーベル やっぱ英語を使う場所ですね。授業科目として提供するのも非常に大事ですし、一番英語がよく身につく方法論とかね、いろいろ考え続けるべきですけれども、やっぱり英語でいろんなことができるという場があれば、自然にみんな関われるかなあというふうに、今先生に聞かれてパツと思いました。そういうチャンスがいろいろあると思います。講演会も英語だけとかね、授業も英語でするのも増えてきました。けれども、この時間帯は英語しか話せないとか、関学イングリッシュタイム、初等部では、そういうタイムがありますが、大学でもチャペルの時間帯じゃなくってまた別の時間、お昼の時間とかね、英語でしか話せないとか、楽しく生活の中に組み込みやすい方法が

あればと思います。

木本 ありがとうございます。新学部長のもとで進めている施策の方向がそこだったので、心を強くいたしました。

舟木 グルーパー先生は、もともと非常に日本語が上手ですが、院長になられてすぐに個人的に日本語の家庭教師をつけられて、お忙しい合間を縫って、ちゃんと日本語の勉強を続けておられた。本当に頭の下がる思いだったですね。それから、先ほど少しお話がありましたけども、誕生

日カードですね。実は、院長は関学教職員全員の誕生日カードにサインをしなければならない、それも文句一つ言われずに、忙しい合間を縫って心を込めて書いてくださいました。クリスマスも、アドベントの翌日から点灯式があるのですが、このメッセージから始まって最終的にはクリスマスの教職員の集いが一二月二四日にあるんですね、ここまですべて本当に数多くのメッセージをずっとしてくださいまして、しかも、その間に普通のチャペルアワーに時間があれば顔を出してくださいという、本当に感謝しております。

それからミッシヨンステートメント、これもグルーパー先生が中心になって作ってくださいました。普通ミッシヨンステートメントは短いものですが、関西学院らしさを出すために工夫してくださいまして、ちょっと珍しいです

が、Mastery for Service のスクールモットーを入れると、ちょっと懲り気味かなという感じもしたのですが、先生のもとで纏め上げてくださいました。関西学院が拡大していつて、より変化の中にある中の基礎を作ってくださいまして、ただインクルーシブ宣言というのも、先生のもとで纏められて関西学院のあるべき姿を私たちに示してくださいました。大きな役回りの九年間を続けてくださったことをあらためて感謝いたします。

島田 関学で講師を長くさせて頂いた島田です。私が住んでおります芦屋では教会が十あるのですが、その教会が、カトリックから福音系まで全部一緒になってグルーパー院長にお願いして講演をしていただき、みんな素晴らしい感動を得ました。その時に、関西学院の同窓の皆さんにもずいぶん来ていただき、支えていただいたと思っております。質問は、先生が九年間続けられまして、学生の皆さんが卒業されていくときに、ミッシヨンステートメントに合うようなことができているかどうか、あるいは同窓会もそういうことを伝えていくという努力をなされているのか否か、そういうことも重要なことではないかと思うのですが、その辺のことでお考えがございましたら、お聞かせください。

ミッションなくして学校の存在意味はない

グローバル これは言うまでもないことですが、競争が激しい中、そして人口が実際に減っている、少子化だけでなく、人口が減っている中で学校とはどうあるべきなのか、本当に生き残る権利があるのか、そこまで考えなくちゃいけないかも知れません。関西学院は素晴らしい理念を持っているので、これはぜひ活かして、そして人のために、生き残るためじゃなくって、本当に豊かな人々、豊かな社会を作るための活動に一生懸命努力を続けなければいけない。今は世界に向かって貢献したい人たちが集まってくださっているの、そうした気持ちを持って進めていると思っています。それを忘れてしまった場合には、文科省がこう言っているから、それに従ってしなければいけない（時と場合によってはそれも必要ですが）、そうではなくて、何故私達はそれをしているのか、それを常に振り返って「私達は大切なミッションを持っている、だからこれをこういうふうに進めましょう」とみんなと確認しながら活動をしていくべきだと、私の意見ですが、そういうふうに思います。

新基本構想が始まった時、ミッションをみんなで考えた

のは、私はとっても大事だったと思います。小さい組織だった時は、みんな何となく言葉にしろなくても、みんなが存在の意味を共有していたと思います。けれども、大きくなると少しそれが薄れてきてしまいますので、今回の機会は、はっきりとみんなで共有できるミッションを言葉にして、そしてみんながそれぞれの力でそれを実現するという、これが本当に共同的なコミュニティだと思います。忙しさとか、いろんな経営のプレッシャーや、何か事件があったり、いろいろそういうトラブルの時には忘れてしまいがちですけれども、やはり何のために私達が存在しているのか、関学は本当に今必要なのか、そうでなければ、意味がなければ関西学院という学校はなくてもいいんじゃないかと私は思います。けれども関西学院にはちゃんとミッションがあり、みんなが担っていると思います。

舟木 司会の私からの質問になりますが、「リーダーシップ」の話を先生はされていました。グローバル先生は「サバントリーダーシップ」という言葉を提唱されておられましたが、そのサバントリーダーシップに関する思いを少し語っていただけませんかでしょうか。



サーバントリーダーシップとは？

グルーベル Mastery for Service というスクールモットーを持っている学校では、サーバントリーダーシップ (servant leadership) という精神は、非常によく合っているというふうに思います。サーバントリーダーシップというのは、リーダーがみんなのことを聞くとか、みんなのために奉仕をするとか、(それもあってもいいと思いますが)、そういう意味ではなくて、みんなが力強く協力して働ける組織のビジョンをつくり、構成員を考えてその人達の力を引き出し、その人達の存在を意識して前に進むというリーダーシップです。ひとりが方向を決めて、みんなを引っ張っていくのではなく、みんなの力、みんなの才能を活かすようなかたちで、よりよい組織の方向性を決めていくリーダーシップだと、私は理解しています。

舟木 ご存知でしょうが、グルーベル先生は宣教師です。宣教師館というところにお住まいですが、ずっと学生さんを家に呼ばれて食事の提供とかされているんですね。また第二と第四の日曜日には、関西学院会館のベーツチャペルで礼拝を田淵先生が中心にな開かれているのですが、その始まった当初からずっと先生は参加してくださっています。その礼拝の後には、ティーパーティーのようなことをする

のですが、いつもたくさんの手作りのお菓子とかを提供していただき、ありがたい奉仕を続けてくださっています。このことはお知りおきいただきたいと思います。

拡大した関西学院をどのように担うのか

鮎川 私もこの大学に就職した頃は、上ヶ原と神戸三田の二つだけだったんですが、最近通いだしたのは聖和キャンパスです。先生は全体をご覧になってリーダーシップを発揮されてきたと思うのですが、私たちは、千里国際キャンパスとか、あるいは宝塚キャンパスの小学校のこととか、何かイメージが思い浮かばないですね。全体についてなにかぼんやりとしてしまっているというか、以前ほどの親密感とかアイデンティティとかが感じられなくなっている。急速に十年間でこんなに大きくなったというのが大きく影響していると思います。あえて申し上げれば、十年間の拡張ぶりというのは良かったのでしょうか、それとも少し問題が無くは無かったのでしょうか。そこを少しお話いただきたい。それと、これはもうなってしまうことですから、なってしまったこととして、私たちは、関西学院を担う教職員として、どのように意識を喚起していったらいいのかと、そこを少しお話いただけたらと思います。



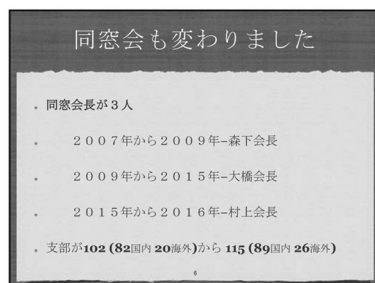
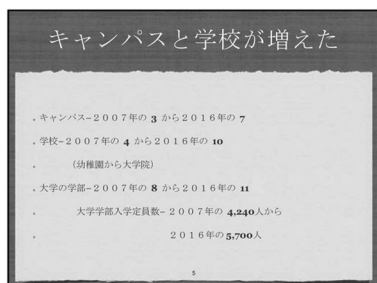
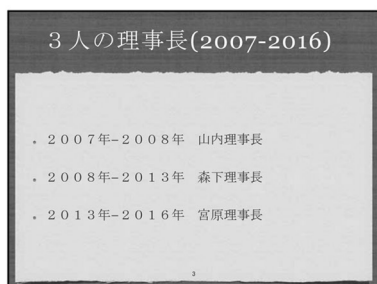
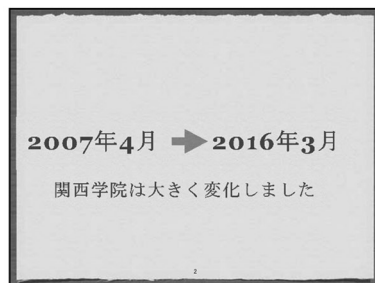
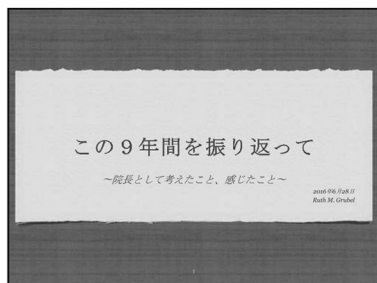
グルーベル 鋭く問題の中心を語ってくださったと思います。そして拡大するというためにはいろんな理由があったと思います。で、おっしゃるようにもうそうなっているから、あるものは計画的にプランをたてた場合もあれば、チャンスが与えられたからそのチャンスをつんだ、そういうこともあります。そして経営的なこともあればまた教育のこともあります。初等部を創るときには、中学部に優れた生徒たちを送ってもらうとか、小さい時から同じ精神を学ぶチャンスを与えるための組織を作るとか、そういうビジョンもあったと思います。とにかく大きくなるとみんな全体を見る力を失うというのか、目の前にあることに必死になっていくので、あまり気づかないと思います。これは一般的に、市民に対してもよく言えることです。私は政治学が専門ですので、どのようにして市民の目をもう少し国レベルのことに向けさせるのか、あるいは世界に向けさせるのか、こうした問題は大きくて、どのように解決するのかわかりませんが、現代は情報化時代になっているので、関西学院も、もう少し巧く学内のメディアを利用して、みんなが身近に他のキャンパスや他の学校を感じることでできたらいと思います。

学内の広報活動では、いろいろなパンフレットを作られますが、各学校やロースクールもそうですが、大体そこに

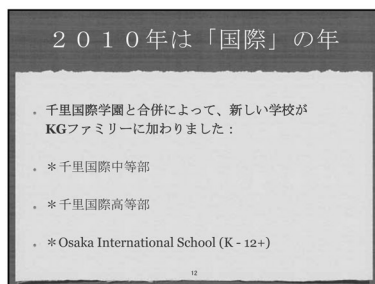
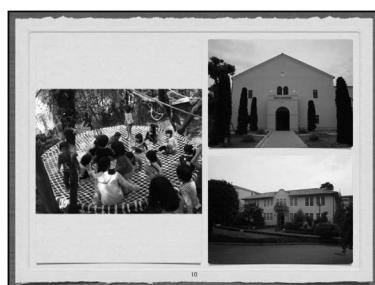
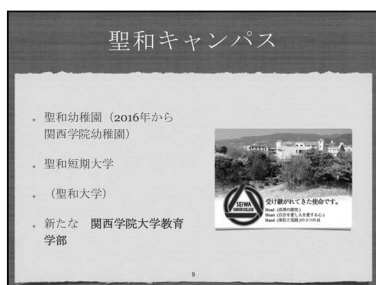
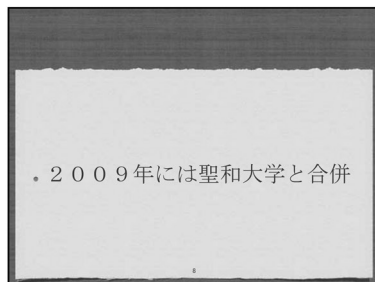
は院長の挨拶が出ています。挨拶の原稿をいくつ毎年書いたのか数えませんが、広報室や秘書課の方々に助けられて何とか書いていました。学内では、違う部署の方には届けられないわけで、同じところに届けられるのですが、いくらでも原稿のアイデアが湧いて来れば良いかも知れませんが難しいですね（笑）。関学のFeedbackはすごく成功していますが、これがどれだけ学院全体を表していて、そしてどなたがそれを見ているのかよくわかりません。メディアを使うのもいいですが、やはり人間が実際にコネクションを作った方が、温かい気持ちで伝わると思います。確かに質問された問題は大きなテーマです、これからの課題だと思います。

舟木 ありがとうございます。それでは時間になりましたので、これで今日の研究会は終了にしたいと思います。今一度私たちのためにお忙しい中お話ししていただきましたグルーベル先生に感謝の拍手をお願いしたいと思います。（拍手）

院長は三月で終えられましたけれども、関西学院にはいらつしやいますので、まだまだこれからも学校で先生にご教示いただくことがあると思います、どうぞよろしくお願ひします。それではこれで研究会を終了いたします。




『この九年間を振り返って一院長として考えたこと、感じたことー』





## 2010年

- ・大学には11番目の学部 - 国際学部 - が誕生
- ・カナダメソジスト教会が 開学の経営に加わって100年
- ・キリスト教学校教育同盟 100周年
- ・創立125周年記念活動が始まる



C. J. L. Bates in the president's office (Central Auditorium), 1922

14




## 125周年記念事業 2010-2015

15

## 2011年3月11日 東日本大震災- TRIPLE DISASTER

東日本大震災への対応をきき学院の「魂」で導ける（国教団教員会が全体的な動きをまとめる）

16




## 共学化

中学部は2012年から～高等部は2015年から

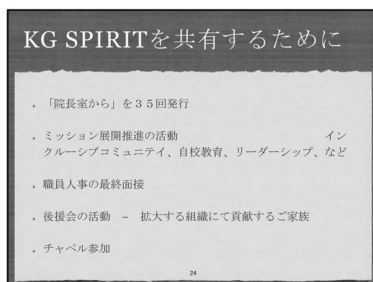
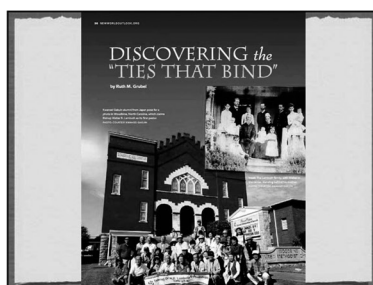
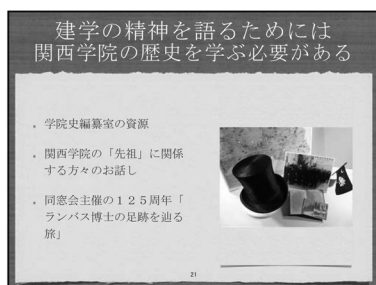
17

## 拡大する組織の影響 2007年-2016年

- ・入学式、卒業式の数が倍増（以上）する
- ・「建学の精神」を語る場が増える
- ・チャペル・礼拝・キリスト教行事が増えるため、宗教センターのまとめ役も拡大する

18

『この九年間を振り返って一院長として考えたこと、感じたことー』



最初から最後まで  
お世話になりました

- ・ 法人部の方々  
秘書課、校友課の皆様
- ・ 宗教総主事(3人の院長補佐も有難うございました)
- ・ 皆様なくては1年も続けることは不可能でした
- ・ 社会学部の皆様のご理解も感謝します

25



9年間のご辛抱、心から感謝いたします  
ご静聴ありがとうございました

26